



かるたで巡るふるさと小学生が町巡り

町 内小学校3校の3年生による町巡りが6月11日(木)に町内一円でわれ、児童29人が参加しました。

これは、町内3小学校の児童と一緒に学ぶ「サンサンスタディ」の一環で、当日は実際に大石田かるたに詠まれた現地を巡りました。

今回は、鏝絵、涅槃像、虹ヶ丘の春に関するスポットを巡り、各スポットでは、有識者からかるたの由来や歴史についての話を聞き、子どもたちは、大石田かるたで詠まれたふるさとの名所の歴史と文化を学んでいました。



災害時の応急仮設住宅に関する災害協定を締結

大 石田町では、一般社団法人日本ムービングハウス協会と移動式木造住宅の建設に関する協定を5月27日(水)に締結しました。

これは、町で大規模な災害が発生した場合に同協会が建設する移動式木造住宅を活用して、いち早く応急仮設住宅を設置することができるようにするものです。

町では、災害に備え、様々な災害協定を締結し、安全・安心な町づくりのために取り組んでいます。



少年少女発明クラブドローンの仕組みと操作を体験

プログラミング体験やものづくり工作などを通して楽しく学ぶことを目的とした尾花沢市・大石田町少年少女発明クラブの開校式が、5月23日(土)に尾花沢市サルナートで行われました。今年、尾花沢市と大石田町の児童約30名がクラブ会員となり、活動します。

開校式を終えると、児童たちは、ドローンの仕組みや働く姿を動画で学び、その後実際に操作体験を行いました。

参加した、柴田理仁さん(北小)は、「ドローンを飛ばすのがとても楽しかった。まっすぐ飛ばすことが難しかったけど、また参加したい。」と話していました。



町の特産品の自然薯児童が定植体験

町 内小学校の6年生を対象とした自然薯の定植イベントが6月3日(水)に行われ、児童44人が自然薯の定植を体験しました。これは、大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)の協力で、毎年実施されているものです。

児童たちは、研究会のメンバーに指導を受けながら、種芋の植え付けを行いました。雨にもかかわらず、畑では子どもたちの元気な笑い声が聞こえていました。その後、海藤会長から、自然薯栽培を始めたきっかけや自然薯栽培を通して伝えたい想いを聞き、独自に開発した道具を使った定植方法などの説明を聞きました。

参加した井上結都さん(大小)は、「雨が降っていたので、少し大変でした。元気に育って、収穫ができるのが楽しみです。」と話していました。



思い思いの作品作る水明苑で陶芸体験

地 域おこし協力隊の神田光彦隊員と株式会社ブリッジ(次年子窯)の代表取締役である高橋廣道さんによる陶芸教室が5月13日(水)に水明苑で行われました。

これは、水明苑の利用者によるクラブ活動の一環で行われたもので、当日は、利用者10名が参加し、コップや皿など思い思いの作品を楽しみながら作成しました。

今回は、令和8年4月から大石田焼の普及などを任務として着任した神田隊員の初の取り組みでもあり、当日は作り方のコツなどを利用者に指導していました。



園児や児童が伝統的な田植えを体験

町 内保育園の園児や小学校5年生の児童が手植えによる田植えを体験しました。

これは、伝統農的農法による米作りを通して、ふるさとの文化や自然に対して理解を深めてもらおうと行われているものです。

この内、大石田南小学校5年生は6月2日(火)に横山地域農地・水・環境保全組織にご協力いただき、手植えによる田植えを体験しました。児童たちは初めて入る田んぼの感触にはしゃぎながら、泥だらけになって苗を植え付けていました。

参加した小内凜乃さん(南小)は、「初めての田植えだったけど、植えている時は、その感触とかを感じながら作業ができました。秋の収穫が楽しみです。」と話していました。